

1. 事業評価説明シート

事業名	治水事業 [統一級河川整備事業(国補)]	事業箇所	富士吉田市 新倉	地区名	入山川	事業主体	山梨県																														
<p>(1) 事業概要</p> <p>①課題・背景 入山川は、富士吉田市新倉地内を流れ下吉田地内で宮川に合流する流路延長2.6km、流域面積4.0km²の一級河川である。 事業区間は、現況の流下能力が29m³/s(治水安全度1/1.5 程度)しかなく、昭和58年8月の台風5号、平成3年8月の台風12号では河川の氾濫によって甚大な被害が発生している。 当該区間の川沿には家屋が点在しており、洪水被害の再発に対して早期の改修が望まれていたが、これまで宮川合流から中央道までの下流区間が未整備であったことから、事業区間に着手できなかった。 平成25年度に下流区間の整備が完了したことから、事業区間の河道拡幅を行い、治水安全度の向上を図るものとする。</p> <p>□主要目標 洪水被害の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の災害実績、事業の緊急度、災害発生の危険度(評点法) 22点>21点以上 ※ 想定氾濫区域1ha当たり被害軽減額 88.2百万円 > 6百万円/ha以上 ※ ※評価基準値 <p>□副次目標 —</p> <p>□副次効果 被災時の被害波及の防止</p>				<p>(3) 事業の妥当性評価 妥当・妥当でない</p> <p>①公共関与の妥当性(行政が行うべき事業か) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 河川法第1条及び第9条により河川の洪水防止を義務づけられている。</p> <p>②事業執行主体の妥当性(県が行うべきか) <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 県が管理する一級河川(指定区間)である。</p> <p>③経済妥当性 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 費用便益費 便益(B)/費用(C) = 8.1 > 1.0 ・便益(B) = 6,302百万円 ・費用(C) = 778百万円</p> <p>④事業実施・規模の妥当性 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 浸水被害の再発を防止する改修が必要な区間に対して、時間管理や予算管理の徹底により、概ね10年程度で完了できる最も効果的な事業規模である。</p> <p>⑤整備手法の有効性 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 河道拡幅を基本とする河積の拡大が、流下能力を向上させる最も有効な手法である。</p> <p>⑥環境負荷への配慮 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 周辺には世界遺産登録となった富士山のビューポイント等があることから、改修・設計にあたっては、自然環境の確保及び景観の保全・向上に十分配慮する。</p> <p>⑦事業計画の熟度 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 地元の要望も強く、熟度は高い。</p> <p>総合評価 [貢献度ランク: a] <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>																																	
<p>(2) 整備内容と整備量</p> <p>①整備内容 河川改修 L = 330 m</p> <p>②整備期間 平成 28年度 ~ 平成 37年度</p> <p>③総事業費 約973百万円(国費486.5百万円(5/10)県費486.5百万円(5/10))</p> <p>④全体計画 (年度別整備内容) (事業費)</p> <table border="1"> <tr><td>平成 28 年度</td><td>護岸・橋梁詳細設計、地質調査測量</td><td>33 百万円</td></tr> <tr><td>平成 29 年度</td><td>用地測量、家屋・物件補償調査、用地補償</td><td>90 百万円</td></tr> <tr><td>平成 30 年度</td><td>用地補償</td><td>100 百万円</td></tr> <tr><td>平成 31 年度</td><td>橋梁工1橋、護岸工、用地補償</td><td>140 百万円</td></tr> <tr><td>平成 32 年度</td><td>護岸工、用地補償</td><td>145 百万円</td></tr> <tr><td>平成 33 年度</td><td>護岸工</td><td>95 百万円</td></tr> <tr><td>平成 34 年度</td><td>護岸工</td><td>90 百万円</td></tr> <tr><td>平成 35 年度</td><td>護岸工</td><td>90 百万円</td></tr> <tr><td>平成 36 年度</td><td>護岸工</td><td>90 百万円</td></tr> <tr><td>平成 37 年度</td><td>橋梁工1橋、護岸工</td><td>100 百万円</td></tr> </table> <p>⑤既整備内容・期間・事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> 既整備内容: 河川改修 L=600m 整備期間: 平成7年~平成25年 事業費: 17億円 				平成 28 年度	護岸・橋梁詳細設計、地質調査測量	33 百万円	平成 29 年度	用地測量、家屋・物件補償調査、用地補償	90 百万円	平成 30 年度	用地補償	100 百万円	平成 31 年度	橋梁工1橋、護岸工、用地補償	140 百万円	平成 32 年度	護岸工、用地補償	145 百万円	平成 33 年度	護岸工	95 百万円	平成 34 年度	護岸工	90 百万円	平成 35 年度	護岸工	90 百万円	平成 36 年度	護岸工	90 百万円	平成 37 年度	橋梁工1橋、護岸工	100 百万円	<p>【事業位置図等】</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業評価箇所 整備済区間 浸水想定区域 			
平成 28 年度	護岸・橋梁詳細設計、地質調査測量	33 百万円																																			
平成 29 年度	用地測量、家屋・物件補償調査、用地補償	90 百万円																																			
平成 30 年度	用地補償	100 百万円																																			
平成 31 年度	橋梁工1橋、護岸工、用地補償	140 百万円																																			
平成 32 年度	護岸工、用地補償	145 百万円																																			
平成 33 年度	護岸工	95 百万円																																			
平成 34 年度	護岸工	90 百万円																																			
平成 35 年度	護岸工	90 百万円																																			
平成 36 年度	護岸工	90 百万円																																			
平成 37 年度	橋梁工1橋、護岸工	100 百万円																																			

2. 添付資料シート

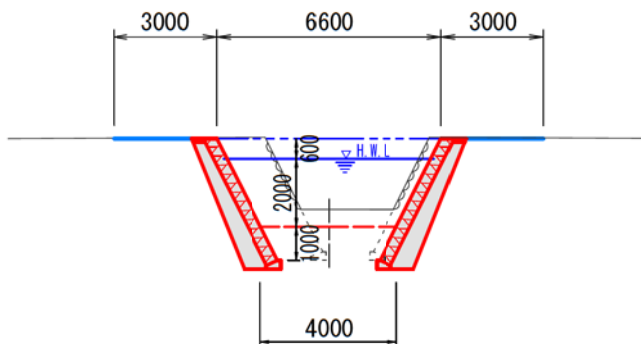
【航空写真】

省略

省略

【昭和58年8月(台風5号)出水時 状況写真】

【標準断面図】



【現況写真】

